

妻に龍が付きまして：

## 第1章 ”龍神とコンビ成立”で、

あなたの可能性は無限大

(166)

楽しく弾んだ魂が龍神の好物

中略

賑やかな車中で妻が龍神に問いかけた。

「こないだ人間と神様は支え合うとか、人間の”祈り”と

”魂”を食うとか言つてたけれど、あれどういうこと？」

「えつ。神様つて絶対的な存在じゃないの？ 人間が神様の

食べ物になる？ どういうこと？」

「ふん。おまえら、全然わかつたらんな」

「もったいぶつてないで教えてよ」

「まあ、慌てるな。ひとつひとつ話をするがね。まず、人間も神様も、もちろん龍神もみんなこの宇宙で共存している存

在なのだよ」

みんなこの世界にすんでるってこと？」

「さよう」

「でも見えませんよ。少なくとも僕には」

「私にも見えない。気配や声はわかるけど」

「我はおまえに付いている龍神、言わば共同体だからな。見えなくて当然だがね。自分の顔を見ることはできんだろ」

「げっ。私と共同体なの？ でもたしかにそういうのが見える人に『あなたの周りに白い龍のようなものが巻き付いてますね』って何度か言われたことはあるわ」

「龍みたいなものじゃないがね。我はれっきとした龍神だがね」

「で、その龍神様がなぜ僕たちのところに？」

「我々龍神や神様の世界、妖精や天使の世界、死んだ人間の世界がある。それに人間の世界だ。これらはすべて同じ宇宙という箱のなかで共存しておるのだ。もしそのひとつが弱つてくると、ほかの世界まで弱ってしまう。運命共同体なのだ。だから、ほかの世界が危なくなったらみんなで助け合わなきゃならんのだ」

「箱のなかのひとつのミカンが腐ると、ほかのミカンまで腐るみたいなの？」

「さよう。そして人間の世界は神様の助けをもらって繁栄し、神様もそれに対する感謝の祈りで力をもらっていたのだ。つまりお互い支え合っているのだ」

「ふーん。で、龍神様が出てきたってことは、人間界が弱ってるってこと？」

「おまえ、話が早いじゃないか。我々龍神や神様の食料が減っておるのだ。その食料というのが人間の”祈り”や”魂”だ」

「マジで？ 神様って人間の魂食っちゃうの？」

「心配することはないがね。食うと言ってもその人間が死ぬわけではない、むしろ運氣が上がるのだよ」

「それならむしろ食べてほしいわ」

「どんな魂でもいいわけではないがね。生長する魂、楽しく弾んだ魂でなければならんのだ」

神様には媚びを売ってもいい!?

## レッスン①

ここでは龍神に教えてもらった神様が喜ぶ挨拶の仕方を書きます。あなたに好きな人ができたときを想像してください。あなたはその人に好かれるためにどんな行動を取りますか？それを神様に置き換えてみましょう。ココがミソです。鳥居の前で一礼するとか参道の真ん中は歩かないというシキタリはけっこうどこでも書いてあるので、とくに気をつけるといういこと到的を絞ってお伝えします。あ、お祈りするときに住所、氏名、生年月日をお伝えするのも忘れずに。初めて会ったときの自己紹介は大切ですから。

あなたならどうする？

く 思いを寄せる人に好かれたいとき

### ◎その神社の神様を知っておく

人だって好きになった人のことを知りたいと思えますよね？ これは神様も一緒。自分のことを知ろうとしてくれるって単純にうれしいものです。そういう人を神様も好きなんです。

そして知ると知らないのでは、ご利益がまるつきり違います。僕らも「神社は神社でしょ。みんな一緒」つて長〜いこと思っていて、龍神から「バカモン」と叱られた口ですが。

だから、どうせお参りに行くなら簡単でもいいので、その神社の御祭神を調べておきましょう。僕も龍神に教わってから、せっせと神社の神様を調べたんですが、それはもう効果がすさまじく違いました。

神様によって得意分野が違うんだから、当然。商売繁盛のお願いを恋愛の神様にしてもズレているし、逆に縁結びを五穀豊穡の神様にお願ひしても、神様も困っちゃうんだそうです。おーい、わしや恋愛は不得手なんだよ〜って。

神社の由来をサラッと読んでなんとなくわかるだけで十分。由緒書を読むだけでもOKです。

あなたならどうする？ く 神様にご挨拶に行くとき

### ◎服装に気をつける

好きな人とデート。そんなとき、気をつけるのはやっぱり服装。見た目はやっぱり大切。神様に会いに行くときも一緒です。これまでは、神社に行くのに格好なんて気にも止めませんでした。が、過度に露出の多い服や、だらしない格好では神様に失礼です。とはいえ、特別な服装をしろと言うのではありません。肌の露出を少なく、派手なアクセサリー（めっちゃでっかいネックレスとか）は避けましょう。要は、神様にご挨拶に伺うのに失礼のないスタイルであればOKです。それを教えてもらったあと、僕の神社参拝スタイルは大体白いシャツになりました。小さなことですが、服装に気を使ってから神社での体感が強くなりましたから、やはり神様も喜んでいるのでしょう。なんだコイツ？と思われる服装をするだけで神様の認識が格段に変わります。

## ◎きれいな身体で手を合わせる

ちょっと誤解を招く表現ですが、お手水舎で身を清めてねってことです。神社の鳥居をくぐると大抵目に入るあそこです。手洗い場。でも、わからない人も多いと思うんですよ。そもそも最初はなんのために手を洗うのかも知らなかったし。これは禊ぎというか、大切な人に挨拶に行くときに、汗まみれで行きたくないじゃないですか。実際は汚れていなくても、やっぱり清潔感は大変。それを、手を洗って口をすすぐだけで簡易的にできるのがお手水舎。手を洗うという行為は、科学的にも心のなかの罪悪感を流すことが証明されていて、心身を清めて神様に会うという大きな流れのなかのひとつになるんです。決して、ただの手洗い場ではないので、お参りの際はちゃんとお手水舎で清めましょう。

あなたならどうする？　どうしても願いを叶えたいとき  
◎願い事は声に出して伝える

好きな人には思いをきちんと伝えないとお付き合いはできません。それは神様も一緒。なにを求めているかをきちんと認識してもらう必要があります。

「おまえ、一体、なにをお願いしたんだね？」

「えっ？　龍神ならわかるんじゃないの？」

「おまえら本当にバカだな。人間だって小さな声よりも大きな声のほうが聞きやすいじゃないかね？」

神様だって一緒なのだ。はっきり□に出したほうが願いが伝わりやすいがね」

やってみました。するとですね、これまでずーっとくすぶっていた願いが、2週間も経たないうちに叶っちゃったんですよ。自力ではもうどうしようもない状態だったので、他力の後押しを願いに神頼みに走ったわけです。この「願いは口に出すとより叶いやすくなる」というアドバイス。まさかっと思うでしょ？　そのまさかです。心のなかだけで祈るより、断然口に出したほうが叶うんです。日本語には「言霊」という霊力が宿ります。小さな声でも言霊に思いを乗せたほうが絶対に神様に届きやすくなります。それからアウトプットするという意味もあります。

## ◎賽銭箱には気持ちが伝わる金額を入れる

思いを形にする。好きな人になにかプレゼントして気を引こうとしますよね？　神様で言えばお賽銭です。

アタシ、この神様のことも勉強したし、お手水舎でお清めもしたからもうこれでいいよね。お賽銭は十分に縁があるように15円でいいや（ほんとはお金が惜しいだけ）的な方、もしいましたら大損しています。

「お願いだけして帰るなんて勝手すぎるがね。ちゃんと賽銭にも気持ちを含めるのが敬意。それぞれの事情はあるから賽銭の金額にイチヤモンつけてんじゃない。要は、なるべく出費は抑えていいとこだけ味わいたいっていうその気持ちが気に食わん」

「うう、たしかに……」

皆さんそういう人、好きですか？　僕は嫌。相手の真面目

さとか真剣さとか、シンパシーを感じるからこそ、「よし、わかった！　なんとかしてやっから」的な気持ちが湧いてくるものです。

だから、あなたの気持ちをちゃんと示した金額、そう、あなた自身のこれでよし、お願いします！と納得できる金額を入れましょう。それぞれの立場や事情によって金額は変わってもOK。ただし、気持ちが伝わる金額というのがミソです。

そんな感じで突然現れた龍神様ですが、言われた通りに神社参拝したら本当に願いが叶ったのです。どうしようもない状態からみるみる人生を回復させる奇跡を起こしてくれた龍神様。その指導に従ったらどんなことになるんだろう？　僕も変われるのだろうか？

「さて、どうするかね？　私の教えに乗ってみんなかね？

「お願いします！」

まだ冷たい風のなか。澄んだ空。芽吹き始めた森。不思議な春。こうして僕たちの奇妙な3体の生活が始まったのです。

**神社初心者はこちらに行こう！**

**大事な神様教えます**

さて。龍神様の教えで僕たちは十和田神社へご挨拶をしました。とはいっても「自分に合った神様ってだれ？どこ？」って思いますよね。いまは古事記のことなんて学校じゃ教えてくれないし、アマテラスとかスサノオとか言われても、聞いたことはあるけどどんな神様かは知らん、という人がほとんどです。それは仕方ありません。

そこで僕のお勧めの神様を教えます。どこの神社に行けば

いいのかわからない人は、とりあえずここでご紹介する神様のいる神社に行ってみてください。

まずは、「オオクニヌシ（大国主）」という神様です。

この神様は別名「大黒様」「オオナムチ」として祀られていることもあります。どんな神様かといえは、ズバリ縁結びが得意なんです。古事記を読むとわかりますが、この神様は人が良すぎて、すぐに編まれてはひどい目にばかり合っちゃうかわいそうな神様。それでも、その人の良さからみんなに愛されていて、困ったときは必ずほかの神様が助けに来てくれる。たくさん縁に助けられ、守られて、ついには国を統一した偉大な神様です。だから人間の縁を結ぶのも得意中の得意なんです。

考えてみてください。大体の願いは必ずなんらかの「縁結び」が必要ですよ。 「恋愛」「結婚」はもちろん「出世」

だっていい仕事や上司との縁が必要だし、「利益向上」も良い商品、お客さんとの縁が必要です。人との縁、家の縁、社会の縁……。ですから、どんな願いでもまずはオオクニヌシへお願いしてみましょう。一番大きな神社は出雲大社ですが、全国あちこちで祀られています。

次に「アマテラス（天照大神）」です。

言わずもがな、日本の最高神であり、太陽の神です。すべての人に温かい陽の光を注いでくれます。そのご神徳は幅広く、国土安寧あんねいから個々の小さな願いまで。伊勢神宮にお祀りされていますが、全国の皇太神社や神明社ほか、多くの神社でお祀りされています。僕も東京に行ったら、東京大神宮には足を運ぶようにしています。

いまはアマテラスが最高神とされていますが、かつては天をアマテラスが、地上をオオクニヌシが治めていました。ですから2柱ともに大きな力を持っています。困ったときは、オオクニヌシか、アマテラスのいる神社へ足を運んでみましょう。

あとは番外編ですが、龍神様と親しい間柄の神様って知りたいですね？ 八岐大蛇を退治した勇者スサノオとか、天岩戸に閉じこもったアマテラスを引き出したタデカラオという力持ちの神様と一緒に祀られて馴染みが深い龍神様ですが、意外なことにククリヒメ（菊理姫）という女神とも大の仲良しなんだそうです。ククリヒメは男女の縁結びの神様としても有名で、全国の白山神社におられます。白山神社は全国に約2700社もありますので、あなたの近くにもきっとあるはず。足を運んでみると龍神様との縁も深まります。

### 第3章 龍神が力をくれる理由。

神社×神様×人間の驚きの仕組み

#### 龍神の教え⑥

生まれてから死ぬまでずっと守ってくれる神様がだれにでもいる。その存在につねに意識を向けるべし。

神棚を祀る。これが神様と仲良くなる一番の近道

「ところでガガ」

横でさめざめ涙を流す（ついでに鼻水も）僕には触れず、

ワカが口を開いた。

「なんだね」

「私やタ力は近くに神社があって、直感で『ここだ！』って思ったけどさ、自分の産土神様がわからない入ってどうすりゃいいの？」

「神様は融通が利く。我が名前はいらんと言ったように、神様も自分が何者かはわかっておるのだ。だから人間が『産土神様ありがとう』って心で言えば、ちゃんと祈りは届くがね。家に神棚があれば、そこで産土神様への感謝を伝えれば神棚の神様がその声を届けてくれる。神様界にもネットワークがあるのだよ」

「じゃあ、家に神棚があると神様に願いが」

「俄然、届きやすくなるがね」

ガガは当然のことのように言った。

「我々龍神だって、神様だって、『どうぞおいでください』と言われれば喜んで行く。家に神棚があるということは、神様を歓迎しているということだからね」

「心で思うだけじゃなく……」

「行動で示されれば、神様だってうれしいのは当然だがね」  
「じゃあ、神様や龍神と仲良くなる方法はと聞かれたら？」

「一番は神棚じゃないかね？ 昔はどの家にも神棚があったから神様はどの家にもおったのだよ。我々龍神も家に出入りしやすいかった」

「神棚があると自然と神様の存在も意識するわね」

「見える形であるわけだから人間もより一層、我々を意識してくれるのだ。人間に我々は見えんからね」

神様に声を届けるためには、家に神棚を飾るのが一番の近道です。最近ではマンションのように神棚を設置できるスペースがないところも多いですが、大それたものでなくても大丈夫。神札をお飾りするだけでも構いません。

## 龍神の教え⑧

未来は自分の意思で変わる。好きな未来設計図を描くべし！

中略

「魂はな、それはそれは壮大な旅をしておるのだよ。そのあいだで肉体という衣があるのはほんの一瞬だ。だからその一瞬、つまり人間として生きているあいだの目的を持ってだれもが生まれてくるんだがね、それも自分で選んで」

「自分で選んで？ どういうことですか？ この父親、母親の元に生まれようとか、この環境に生まれようとか、つまりそういうことですか？」

「さよう。よく親に『生んでくれなんて頼んでない』とかいうヤツがおるが違うがね。覚えてないだけで自力でそこに生まれてきておる」

嘘でしょう？ 信じられないな。なんのためにです？」

「前世でやり残した課題をクリアするためだがね」

なんだか大変な話になってきた。

「例えば、前世で大切な人を見捨てて自分だけが助かったヤツがおるとする。そいつの心には『大切な人を見捨てた』

という後悔が残る」

「もしかして、その後悔を懺悔しに生まれてくるとか言わないでよ」

「その通り。懺悔とまではいなくても、だれかを助けたという魂で生まれてくる。後悔を払拭するためにな。その本当の目的を達成するまで、ずっと続く。本人は覚えてなくても魂には刻まれている」

「じゃあ、そういう人がもし災害に遭ったら……」

「自分の命を顧みずに他人の命を救おうとする。その人間の魂が自らの成長と満足のためにした行動であれば、我々もそれを止めることはできんがね。その人間が望んだことだからだ。前世からのカルマに関しては我々も手は出せん」

「いい人ほど早く死ぬ」は事実。神様に救われた魂の行き先

「それにな……」

ガガは一層身を乗り出して、大きな顔を一直線に僕に近づけて……、人間ならそういう感じの描写だろうか。そんな空気を漂わせながら言った。

「いいヤツほど早く死ぬって言わんかね？」

「あ、聞いたことあります。早く亡くなる人は魂のレベルが高いつて本で読んだ気が……」

「それは事実だがね」

いい人は早く死ぬ？ え、本当に??

「この世を出ていく、つまりおまえたちの言う「死ぬ」つ

てことは魂的には良いことなのだ。人間には肉体や感情があるから怖いだろうがな。この世はゴチャ混ぜ、天国行き地獄行きの魂が一緒くたに生活しておる。同じ釜の飯だよ。そのなかで生活するのがいわゆる魂の修行だ。だから志の高いヤツの魂は修行が早く済む。この世から上げてやるのは、神様の計らいでもあるがね」

「早くこの世を卒業させてやろう、救い出してやろうってこと？」

「さよう。レベルの高い魂は、この世に長くいると消耗して疲れてしまうのだ。だから消耗が少ないうちに上へ戻して、次に。次に生まれ変わるときにまた人間界で活躍してもらおうという神様の要望でもある」

「……ってことはもしかして……？」

「気づいておったか・コイツ（ワカ）もそうだがね」

「私、そんないい人じゃないけど……。でも、自分が大人になったときのビジョンは全然見えなかった」

こういう話をワカを介してしかできない自分が齒がゆい。しかし、ワカはさも割り切った顔で淡々とガガの言葉を伝えてくれる。

「こいつはもっと早い段階で上に行く予定だったのだ。神様もそれを望んでいた。しかし、昔出会った猫のために生きる決断をし、そしておまえと出会って生きる選択をした。それも魂のレベルで。だから神様もその本当の意思を尊重し、後押ししたのだ。そうやって運命を変えたのだ」

自分がいないとこの人はダメだ、と思っただけでつらいこの世の修行を選んでくれたのなら、僕はなんて情けないヤツなんだ

ろう……。目の前に広がる波の音が僕の耳に空しく響いてくる。僕はすっかりしななきやいけない。もちろんそれで安心して上に行かれては困るんだけど……。ワガママだが、それが生きている人間の心理だ。

きっとこれまで亡くなった人たちのなかにも最後まで他者のため、そして魂の成長を選んだ人もたくさんいたのだろう。遠藤周作の『沈黙』が映画化されたが、あれはキリスト教が弾圧されていた時代に自分の信仰を信じて殺されていった人たちの話だ。もしかしたらその人たちは、自分が心から信じたことに忠実に生きることのできた崇高な魂の持ち主だったのかもしれない。だとしたらその魂は神様に救済され、次の時代に生まれ変わって活躍していることだろう。現代の人間の感覚で「死ぬ」＝「悪いこと」とは一概に言えないということなのだ。

中略

何事もバランスですかね。周りの人を大事にするのは良いことだけど、その周りの人の願いはその人が元気でいることだったりする。そういうバランス」

「その通り。そうやって壮大な魂の旅を経ながら人間は成長していく。あとは子供を大切にできなかったヤツが、今度は親に大事にされない環境に生まれることもあるがね」

「はあ、因果ってやつですね」

「だからそれを払拭するために成長しながら生きる。それを『なんで私ばかり』と愚痴しか出ぬヤツには龍神は付かん。

その環境を恨まずに問題を正面から乗り越えようという強さを、我々は助けるのだよ」

「そっか。魂の観点から見たら『死んだからダメ』『嫌な環境だからダメ』とは単純には考えられないですね。たとえ早く死んでもそのあいだに大きく魂を成長させていけば、魂の旅全体では大きな前進だと思いうし。魂の旅とカルマか、そこんとこ、すごく興味深いです」

なんとという壮大な話だろう。いま、ここにいる僕は僕の魂が選んで生まれてきたなんて。そしてワカも。

## 第6章 龍神が魅了される

### 日本人の心性

#### 龍神の教え②⑤

自分で決断して行動したことは、必ず良い人生につながる。

## 人間関係が変われば、人生の問題は大抵が解決する

人の悩みの多くはとにかく人間関係からきていると思います。学校、会社、家族、恋愛もなにせこの世は人の縁。周りに恵まれない、嫌な人ばかりだ、そう思うこともあるでしょう。以前は僕もそうでした。人は、必要な人とししか出会わないのだそうです。嫌な人が多いと感じたら、それは自分が人に与えている印象そのままだと龍神は言いました。自分を取り巻く人間関係は、鏡なんだそうです。それを聞いて、僕

はまず我がふりを直しました。

人は愛されたい生き物です。だれかに認められて安心して生きていける。だれにも認められなくていいなんて人はいません。認められたければ、まずは自分が相手を認めましょう。

これは小さな人間関係の世界でこそ効果があります。夫婦、親子、嫁姑（笑）。パーソナルサークル内の人間関係が一番大事で、ここが円滑にいくと全部が回り始めます。

それから、人間関係はその時々で変わっていくのを知っていますか？ ずっと同じ関係は続きません。そのときに必要な舞台が用意されているんです。でも、もう離れるときが来たんだなと思ったら潔く手放しましょう。つらいかもしれないが、モヤモヤしながら関係を続ければ自分に嘘をついていることになります。自分の本音を裏切っているんですね。

嘘をついている限り、人間関係は良くなりません。時は前にしか進みません。古くいらぬものは捨て、進みましょう。実際に離れることはしなくても「あなたの心で区切りをつければ」必ず良い循環、次の循環につながります。自分に必要な人が現れるのです。そのときは次のステップに進んだと思って、一歩踏み出しましょう。これもガガの言う「循環」なのです。

それを表現している神様がいます。出雲大社でお祀りされているオオクニヌシです。この神様は古事記に登場する神様のなかでも最弱かもしれません。兄たちに殺され、恋人スセリビメの父スサノオにはイジメられ。地上世界を治めることになってもどうやって治めたらいいかわからず途方に暮れる始末です。でもほかのどの神様にもないものを彼は持っている

たんです。

それが「仲間」です。

兄たちに殺されたときは母や天上の神様の力で生き返ることができ、スサノオにイジメられたときは恋人スセリビメに助けられ、地上世界をひとりで治められずにいると、スクナビコという神様が助けに現れます。スクナビコが役目を終えて去っていくと、次はオオモノヌシが現れて、助けてくれます。オオクニヌシはその時々で自分に合った仲間を得て成長していきます。自分の成長に合わせて仲間も変わっていくのです。ある日突然やってきて、役目を終えたと去っていく、そういう仲間のことを日本では客人神まれびとがみと言います。日本人はこんな新しい出会いを大事にしました。これも龍神が好きな循環です。

だから出雲大社にはたくさんの龍神が住んでいると言います。

東邦出版 小野寺S一貴